資料２

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

PRESS RELEASE

令和 8 年 2 月 19 日

前立腺がんに対するPSMAルテチウム療法を導入

◆発表のポイント

・既存の治療が効きにくい「転移性去勢抵抗性前立腺がん」に対し、がん細胞をピンポイントで攻撃する最新の放射線治療を導入しました。

・中国・四国地方の拠点病院として、標準治療の選択肢が少なくなった患者さんへ新たな治療選択肢を提供し、生存期間の延長と生活の質の維持を目指します。

岡山大学病院腎泌尿器科（荒木元朗教授・診療科長）では、転移を有する前立腺がんに対して従来の治療（ホルモン療法や化学療法など）で効果が得られなくなった「転移性去勢抵抗性前立腺がん」の患者さんに対し、がん細胞にのみ集まる性質を持った薬剤を用いた最新の治療法「ルテチウムPSMA ※1)放射性リガンド療法」を導入しました。

前立腺がん細胞の表面には「PSMA」という目印が多く存在します。今回導入した治療は、この目印に結合する薬剤に治療用の放射性物質を付け、体内からがんを狙い撃つという画期的なものです。

本治療の導入により、これまでこれ以上の治療が難しいとされた患者さんに対しても、副作用を抑えつつ高い治療効果を提供することが可能となります。地域の中核病院として、最先端の医療を提供し、前立腺がんの克服に向けた重要な一歩を踏み出します。

◆研究者からのひとこと

治療法がないと落胆する患者さんのためにも、この最新治療の導入で、再び希望を持って治療に臨んでいただける体制を整えられたことは、医師としてこれ以上の喜びはありません。岡山から、前立腺がん治療の新たな未来を切り拓いていきます。

荒木元朗　教授

放射線物質で『見つけた敵をそのまま狙い撃つ』という新しいアプローチの治療です。岡山大学病院腎泌尿器科、放射線科、放射線部、看護部で連携し、安全かつ正確な放射線治療を提供します。

河田達志　助教

■発表内容

＜現状＞

前立腺がんは日本人男性で最も罹患数が多いがんであり、高齢化に伴い今後も増加が予想されます。多くの患者さんはホルモン療法で経過が良好な疾患ですが、一部の方は治療効果がなくなる「去勢抵抗性」という状態に移行し、全身に転移が広がり死に至ります。これまでは化学療法などが主な選択肢でしたが、体への負担や効果の限界が課題となっていました。

＜治療導入の内容＞

今回導入した「ルテチウム PSMA 放射性リガンド療法（177 Lu-PSMA-617 を用いた治療）」は、前立腺がん細胞に特異的な PSMA というタンパク質を標的とします。

治療前に、治療を受けるための専用の画像検査である「PSMA-PET」を受けていただき、薬剤ががん細胞に集まるかを確認します。これにより、治療が効く可能性が高い患者さんを事前に選別します。 検査と同じ仕組みで、今度は治療用の放射線を出すルテチウムを体内に注射します。薬剤ががん細胞に直接取り込まれ、内側から細胞を破壊します。 国際的な臨床試験（VISION 試験など）では、標準治療と比較して生存期間を大幅に延長させることが証明されています。

＜社会的な意義＞

これまで国内では限られた施設でしか受けられなかった最先端の治療が、岡山大学病院において保険診療で実施可能になります。これにより、地域におけるがん診療の格差を是正し、多くの患者さんに高度な治療の機会を提供できる社会的意義は極めて大きいと考えています。

■補足・用語説明

※1）PSMA（Prostate-Specific Membrane Antigen）： 前立腺特異的膜抗原。前立腺がん細胞に非常に多く現れる目印。

＜お問い合わせ＞
岡山大学学術研究院医療開発領域（岡山大学病院腎泌尿器科）
研究助教　氏名　河田 達志
（電話番号）　086-235-7287
（FAX）　086-231-3986

Japan. Committed to the SDGs
岡山大学 OKAYAMA UNIVERSITY
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
3 すべての人に健康と福祉を
岡山大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。